

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191300102), 法人名 (株式会社 ケーサポート), 事業所名 (グループホーム ヤマブキの家 1階), 所在地 (北広島市中央4丁目7番地5), 自己評価作成日 (令和元年12月20日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月17日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の余暇時間の充実や個別ケアについては、前年に引き続き課題となっており、「楽しみ」をもって生活して頂けるように配慮をしているところです。北広島市社会福祉協議会のご協力により、地域のボランティアの受け入れを継続して行っており、楽器演奏のみならず、読み聞かせ、フラダンスなど内容も多様になっています。行事については、昨年秋に開設後2回目の秋祭り、年末にはクリスマス会、年明けには新年会を行いました。秋祭りにはご家族や近隣の方々にも多数ご出席いただき、盛大なものとなりました。今年度はこれまでの行事とは内容を少しずつ変えながら、より楽しめる催しを計画しております。地域との交流の場を図れるよう、関係性を築いていくこと、地域に行ける環境を積極的に作り、更に地域の方々が気軽に足を運べるような事業所作りを目指し、地域との繋がりを絶やさないよう、力を入れていきたいです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvsvaCd=0191300102-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、バス停やJR駅から近く住宅街に立地している。併設の小規模多機能型介護事業所とは、運営推進会議や定期的なレク活動(生け花)、秋祭りの開催など合同で行っており、利用者間の交流を地域交流と捉えている。運営推進会議には、町内会や家族、行政から複数の出席が得られ、活動状況や事故・ヒヤリハットなど、現状を報告している。管理者は、一人ひとりの行動には理由があり、事故を未然に防ぐため、些細な事柄にも気付きの目を養い、ヒヤリハットの書式に記入する取り組みを説明し、事業所への理解に繋げている。利用者から「ここは自分の家だから長期までここに居たい」との意向に応じ、職員一丸となって看取り支援を行い、家族から感謝の言葉があり、職員は達成感を得るなど、大きな学びを経験した事例がある。職員は、地域との関係性を大切にし、外出できない利用者には、ペランダのテーブルにお茶を用意するなど、一人ひとりに合わせた支援に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の都度、施設理念を読み上げ、確認をしている。	地域密着型事業所としての役割を理解した運営理念を策定し、事業所内に掲げている。入社時に理念の持つ意義を伝え、朝礼時は、理念を唱和するなど、意識付けを図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はあまりないが、今後は行事等の参加をし、地域とのつながりを持っていきたい。	利用者と一緒に町内会の清掃活動に参加したり、小学校の運動会や神社祭を見物している。地域からは、事業所の祭りや運営推進会議への参加、演奏など各種ボランティアの来訪があり、地域との繋がりが広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かしていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーから頂いた意見を、サービス向上に生かしている。	会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、2ヶ月毎に開催している。町内会や家族、行政からは複数の出席が得られ、事故やヒヤリハットなど現況報告後に意見交換があり、運営への理解と質の向上に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思ったことは、市の担当者に相談や確認をしている。	困難事例などの相談事や各種提出書類は、担当窓口に出向き改善に向けた助言を得ている。市主催のグループホーム部会や集団指導、認定調査時でも各部署から情報が得られ、運営や業務改善に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	気温の高い日や晴れた日には玄関は開放し、職員間で連携を図りながら外部徘徊や防犯への配慮を行っています。拘束か否かの判断に迷う場合には管理者と相談の上、十分に検討し対応の工夫や代替え等を行っています。内部研修などを行い、正しく理解できるよう取り組んでいる。	身体拘束や虐待の防止については、指針に基づいて適正化委員会や研修会を定期的に開催している。日常業務や会議等でも正しい理解に繋げ、適正なケアへの確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、徹底した虐待防止に努めている。言葉使いや態度など、虐待につながる恐れのあることについては、朝礼などで周知し、注意喚起を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の対象となる方は具体的には居りませんが、制度について、あまり学ぶ機会が無かったものの、個々の必要性は職員間で話し合っていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、内容の解説を行いながら、十分な説明を行なうと共に、家族の不安や疑問点を尋ね、解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、ご家族来訪時には必ずお話をする場を設け、日頃の様子や伝達し、不安や疑問の解消に努めている。要望があれば、管理者・CM・主任を中心に職員間で話し合いを行い、反映させるように努めている。	併設の事業所と合同で、毎月担当者のコメントを添えた写真満載の事業所便りを発行している。家族からは、日常の様子が分かると思感が述べられている。家族の意見は記録に残し、職員間で改善に向け協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は不定期ではあるが事業所に訪問したり、親睦会に参加し、職員との交流に努めており、管理者は日頃から職員との会話や報告・連絡・相談を大切に、また、何かを新たに行う場合には、必ず職員の意見を聞いて実施している。	代表者は、来訪時に職員の意見や要望を傾聴している。管理者は、日頃から職員の意見を反映した運営に努めている。職員は、自己研鑽に励み、各業務で力を発揮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回の人事考課、職員との面談及び日頃の勤務状況、実績を鑑み、適正な評価に努め、向上心を持って働ける環境作りを心がけている。本人の能力に応じた昇格や処遇の改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所での定期的な内部研修の実施、外部研修への参加促進を行っている。また、経験年数や適正に応じて実践者研修の受講、スキルアップ希望者には各種資格取得の研修受講を行うよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH連絡会が主となり、事業所間交流や研修、相互訪問を企画・実施している。それにより運営への反映を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談段階で家族からの話しに耳を傾け、これまでの経緯や不安、要望などを引き出し、信頼関係が築けるように配慮をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を確認し、広い視野で対応を検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の会話の中やコミュニケーションから、入居者の意向をくみ取るように努め、関係構築を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された時には近況をお伝えしたり、ホームとしての懸念事項を伝えるようにし、家族にもご協力頂けるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪については可能な限り制限なく、誰でも来て頂けるようにご家族には説明し、これまでの関係が途切れることのないように働きかけている。外泊や外出の機会は家族によって差はあるものの、ご本人の要望があれば、家族への相談をしている。	利用者の要望で、馴染みのスーパーや銀行、入院見舞等に同行している。利用者の望みを家族に伝え、墓参や法要、外出等が実現している。家族や知人の来訪を歓迎し、寛げるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係を考慮しながら、席の配置や活動時の配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族から、新規入居者の紹介を頂くなど、関係が続いているケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は叶えられるように配慮し、困難な場合には職員と話し合いを行い代替え案を検討をしています。	利用者のさり気ない言葉や表情などから、何を望んでいるかを汲み取る努力が続けられている。家族からの助言も取り入れ、一人ひとりに合ったケアを試み、満足や安心感に繋がる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントの際に、家族や関係者(CM・相談員等)より情報を頂き、入居後も家族からの情報提供を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は入居者の意思で決定できるように配慮し、行動や言動などから、出来ること、出来ない事の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活の質が上がるよう、職員全員で課題等を話し合い、家族の意見も取り入れ、現状に即した計画書になるよう努めている。	ケアプラン作成時は、関わりの中や、更新前に利用者や家族が望む生活への要望を傾聴したり推し量っている。会議で看護師の意見も踏まえ、職員全員で協議している。介護記録に、支援目標の実践が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を活用し、日々の実践、様子を記録している。状態の変化やプラン更新の際には、記録の振り返りと共に、職員間の情報共有をしながら計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月、定例のフロア会議及び早急な対応が必要な場合には、臨時のカンファレンスを行い、職員間で話し合う機会を設け、サービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しきれていないものの、訪問理美容、訪問歯科、ボランティアなどのご協力は頂いている。情報を得るように努め、楽しんでいただけるような支援をしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向が主であるが、医療機関の情報を提供し、納得のいく対応に努めている。また、利用開始後、ご家族の思いに沿っていない場合には、改めて検討し直し、適切な医療を受けられるように配慮しています。	受診先は、利用者や家族の意向を尊重している。現在は、利用者全員が協力医を主治医とし、月2回の訪問診療を受けている。従来のかかりつけ医の受診時は、家族の協力を得ているが、状況により職員が同行する時もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に対し、一週間の様子や特変があった場合には報告し指示を仰いでいる。また、日々の中での気づきや不明な点があった場合には相談し、助言を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報提供を行い、退院時には看護添書を受け取り確認をする。また、不明な点や心配なことがある場合には、相談員を通じて情報交換を行い、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明の上、家族の意向を確認している。今年度1名の看取りを実施。初めての試みであったが、ご家族との話し合いを重ね、担当主治医、看護師との連携も行えた。	指針に沿って、重度化や終末期の対応を説明している。利用者から「ここは自分の家だから、最期までここに居たい」との意向を受け入れたケースがある。職員は研修等で、さらなる知識や技術の習得に努めており、主治医や家族と情報を共有しながら、尊厳ある支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルはあるが、定期的な訓練には至っていない。今後の課題としていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練は実施している。運営推進会議のメンバーに協力を頂いた。その他地域の方にも参加して頂けるよう、協力体制を築いていきたい。	年2回、日中・夜間想定避難訓練を消防署の指導を得て行っている。震災を経験したことから、飲食料や備蓄品を順次用意するなど、防災への意識を高めている。	運営推進会議のメンバーの協力を得ているが、さらに、地域との協力体制の構築と備蓄品の充実、あらゆる災害を想定しての実践的訓練への取り組みに期待したい。併せて全職員が救急救命法を身に付けるなど、態勢作りにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として言葉かけの仕方や関わり方に配慮し、人格の尊重・プライバシーへの配慮を心がけている。	利用者への接遇については、業務上や会議等で適切なケアの在り方を学んでおり、ケアに生かしている。言葉遣いに気を付け、入浴や排泄時は羞恥心に配慮している。個別の記録物も、プライバシーの侵害を意識して取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に耳を傾け、自己選択が出来るような場面を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、職員本位とならぬよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容への配慮を行ない、その人らしさを失わないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みをメニューに反映したり、できること、できないことを把握し、活躍の場面を作るように努めている。	ユニット毎に、利用者の食欲に繋がる献立を作成している。職員は、常に要望を聞き、行事食ではちらし寿司を、新年会には出張寿司職人による握り寿司を堪能している。時には出張ラーメン、ホットプレートでジンギスカン、手打ちそば、外食等で、利用者の楽しみ事に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況に合わせて、提供量や内容を検討し、適正な栄養が摂れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し観察を行っている。また、必要に応じて歯科による治療や口腔チェックをして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に合わせて支援を行っており、排泄パターンの確認により、必要によって定期的な声掛けによる誘導を行ない、トイレでの排泄が出来るように努めている。	トイレでの排泄を基本として支援している。職員間で協議の上、利用者や家族に夜のみポータブルトイレの使用を提案したり、家族から衛生用品の使用申し出がある場合も、出来る限りトイレでの排泄を試みるなど、尊厳に配慮したケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の目的とした食事や水分への配慮、活動の提供に努め、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を表出できる方には、曜日や日程の確認を行い実施し、希望を表出できない方には、その都度確認している。	入浴は、週2回、同性介助の要望に応じ、2人介助も行いながら支援している。足湯をしながらのシャワー浴、1人入浴の見守り、入浴剤の使用、入浴時間調整を行っている。時には鼻歌や本音が聞かれている。拒否の場合は、人や時間を変えるなどして、保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動の促しを行い、その日の状態を考え、休息の時間を確保出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度確認が出来るよう、薬の目的や副作用、用法や用量について記載された薬情を、すぐに確認できる定位置に置き、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の意思を確認し、役割や楽しみが持てるよう工夫している。また、ご家族からの情報を基に、ホームでも行える趣味活動などがあれば行ってもらえる環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分で外出できることは少ないが、気分転換が図れるよう、外出計画を立て実施している。外食や買い物など実施。	近所で飼っている山羊や花を眺めながらの散歩、コンビニや神社、北広島駅、図書館、公園等に足を延ばして気分転換を行っている。外出しない利用者には、ベランダのテーブルにお茶を用意したり、女性利用者は、庭のタンポポやナツメ草を編んで髪飾りを作って昔を懐かしんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の所持はしていませんが、中には家族との相談の上、少額を所持している方もいるため、希望によって買い物にお連れしたり、使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に確認の上、本人が希望した時には支援を行なえるように、予め許可を頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間への配慮を行っている。また、季節に合わせて掲示物の変更などを行い、心地よく過ごせる工夫をしている。	居間は、食事スペースと寛げるスペースがあり、メリハリある設えになっている。季節に因んだ飾りや行事写真、利用者の作品等を掲示し、和みある空間になっている。清掃、温湿度、採光等にも配慮があり、心地良い生活環境を作り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置し、思い思いに過ごせる場所を作り、その時の状況に応じて席替えなどを行い、安心して寛げるよう配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたものを持ってきて頂けるよう働きかけ、本人と相談し過ごしやすい環境づくりをしている。	入居時に、馴染みの調度品や生活用品の持ち込みを勧めている。利用者や家族と相談しながら家族写真を飾るなど、安心感ある空間になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に氏名を明記し、分かるように配慮するとともに、読めない方には目印になるものを利用している。トイレなどの共用部についても同様に配慮している。ホーム内は安全に移動できるよう動線に配慮している。		